

## 令和5年度 第5回飯田市これからの学校のあり方審議会 会議録

開催日時	令和6年1月23日(火) 19:00~20:30
開催会場	飯田市役所 C311~C313 会議室
出席者	審議会委員：後藤正幸、田添莊文、大場孝、小澤克平、玉置洋一、小林正彦、湯本正芳、山浦貞一、山崎久孝、河合一磨、齊藤達也、下平雅規 (オンライン) 井出隆安、坂野慎二 (欠) 渡邊嘉藏 オブザーバー：北澤正光(飯田市教育長職務代理) (敬称略) 事務局：熊谷邦千加教育長、秦野高彦教育次長、福澤好晃学校教育課長 今井栄浩学校教育専門幹、麦島隆教育支援係長、仲田好寿保健給食係長 倉田奨教育企画係長、松下徹総括支援担当専門主査、 桐生尊義教育支援指導主事
配布資料	1 次第 2 第4回審議会までのまとめ 3 飯田市立小中学校の今後のあり方に関する方針(素案)
記録者	事務局 桐生尊義
<p><b>1 開会</b> (進行：学校教育課長)</p> <p>進行 予定時間より若干早いのですが、それぞれ本日ご出席予定の皆様方、お集まりですので、ただいまから第5回の飯田市これからの学校のあり方審議会を開会といたします。</p> <p>今季最強の寒波ということが報道されておる中、寒い中ですがそれぞれお集まりをいただきまして誠にありがとうございます。本日の出席状況でございますが、渡邊委員から欠席のご連絡をいただいております。委員15名中14名の御出席をいただいておりますので委員総数の半数以上のご出席をいただいております。本会議は成立をしております旨お伝えをいたします。</p> <p>なお、この審議会につきましては公開での開会ということにしております。会議資料や委員名簿等は飯田市の公式ウェブサイトに掲載をしておりますので、あらかじめご了承ください。また今回の審議会の会議録につきましても審議会終了後、事務局でまとめたものを委員の皆様にご確認をいただき、確認が終わりましたら公開いたします。公開にあたりましては、出席委員の皆様の方の全員の同意が得られた場合に限り、発言いただいた委員の皆さんの氏名等を公表させていただきます。まずここで本日の会議録における発言委員の氏名の公開について、ご同意いただけるかどうか伺いをいたします。いかがでしょうか。よろしいですか。</p> <p>(異議なし)</p> <p>はい、ありがとうございます。それでは会議内容の公開にあたりましては、発言された委員の方の氏名も併せて公表することといたしますのでよろしく願いいたします。</p> <p>それでは熊谷教育長よりご挨拶を申し上げます。</p> <p><b>2 教育長あいさつ</b></p> <p>改めて皆様こんばんは。年が改まりまして令和6年になってから初めての審議会ということでございますが、朝の天気予報では9時頃から雪が降るみたいな天気だったので心配だなと思っていたんですが、今見るともう少し遅くなって雪になるような様相になっていて、ちょっとほっと</p>	

いたしました。今日はまたオンラインで井出先生そして坂野先生にもご指導いただきますがよろしくお願ひいたします。

この審議会も5回を重ねますけれども、いよいよ大事な今年度の最終の検討の場面にも入ってきたかなというふうに思います。ところでですね、皆さんご存知の通り毎日報道されておりますが、能登半島地震から3週間が経ちますけれども、なかなかライフラインの復旧に時間がかかるというようなことで、その不便さを思うといかばかりかなということを感じるところでございます。飯田市からも市立病院の職員の皆さんがDMATであるとか、水道、上水道の給水支援とか、あるいは下水道復旧支援とか、あるいは緊急消防隊、消防援助隊など飯田市の職員の皆さんが交代で応援に入っている、そんな状況がございます。なかなか表に出ないところでもあるんですが、教育委員会からもスポーツ課にいる若い職員が、1人廃棄物の処理応援というような形で先週から1週間行ってまいりまして、今日帰ってきたところでございます。本人から話を聞くと、一番南の方のたまたま羽咋市というところの応援だったので、住めないところに赤い紙が貼ってあったりとか、黄色い紙が貼ってあったりとか、比較的能登半島の先よりは被害状況としては少ないのかもしれませんが、そういう中で被災された皆さんとお話すると、改めて前向きにありがとうっていう感謝の言葉をかけてくださる方もいらっしゃるし、お年寄りの方なんかは本当にこれからどうしたらいいんだっていうような感じの方もいらっしゃるということでございました。

また、たまたま過ごした宿舎では、それこそ6人とか7人の同部屋のようなところで過ごしたようですが、そこには高校生も避難していてそこで授業をやったり、家に戻れない高校生はそこで寝泊まりをしていたというような状況を聞きました。少しでもそういう状況が改善すればいいかなっていうふうに思いますし、また昨日のニュースでは、珠洲市の緑丘中学校が再開したっていうような報道もありまして、緑丘中学校といえばそれこそ湯本先生の緑ヶ丘中学校が飯田市にもありますけれども、飯田に何か地名のゆかりのあるところが、飯田小学校があったり、北方っていう地名があったりするそうですけれども、そんな関係で飯田市でも珠洲市に向けての募金箱を設置しまして、市役所の入口等にも置いて少しでもお役に立てればというようなことを考えているところでございます。

さて前回11月22日の第4回審議会では、大変貴重なご意見をたくさんいただきました。そのご意見を踏まえて、改めて教育委員会の方で検討して作り直したものについて、今回またご審議をいただければなというふうに思っております。まずこの飯田市全体の構想ということになりますので、中学校区ごとの地域性、規模等様々な違いはございますけれども、飯田市がこれまで大事に取り組んできたことを生かしながら、さらに前へ進んでいくという大きな方向について改めてご審議をいただきたいと思ひます。どうぞよろしくお願ひいたします。

進行 続きまして3. 会長挨拶。後藤会長よりご挨拶をいただきたく存じます。

### 3 後藤会長あいさつ

委員の皆さん、こんばんは。ご参集いただきありがとうございます。リモートでご参加いただいている坂野委員さん、井出委員さん、本日もどうぞよろしくお願ひいたします。

私事で恐縮でございますけれども、私今地域の神社の氏子総代を務めておりまして、大晦日は社務所に泊まりながら、2年参り、また元旦の早朝からの参拝者、それからお宮の1年の最初の神事に当たる歳旦祭というお祭りをして、今年も1年そういう気持ちで新たな気持ちでと帰宅したところに、今お話の能登半島の地震が発生をいたしました。決して他人事ではないなっということを実に思いながら、気持ちが重くなるようなニュース等にも触れているわけでありましてけれども、被災者をはじめ関係の皆様にも心を寄せていきたいというような、そんな気持ちで今いっばいでございます。

自然の豊かさとともに、脅威というのが本当に目の前に現れるわけでありましてけれども、では人間はどうかっていうことを年末からずっと考えているときに、人間も本当に素晴らしい行為を行ったり豊かさもあるわけですが、国の内外で人間が行っている様々な、あえて批判的に言えば愚行というんでしょうか。そのような行為にも触れて、豊かさというものがいつもあるけれど、自然も、人間もそうだと思うんですが、科学技術が進歩していくと、まるで自分も何か上等な人間になっていくような気がしている。ついそうってしまうけれども、今現在目の前に様々な人間の生き方やいろいろな姿が現れるたびに思います。自然の脅威と、人間のある意味愚かさのようなもの、それは実は本質であって、知識だとか技術だとか科学だとかいうのとは無関係に、変わらないであるっていう事実を目の前に示されたような気がして、そんな年末年始になりました。本当に感想で申し訳ありませんけれど、そんな思いをしました。

早いもので本審議会も5回目ということになりました。前は方針のたたき台をもとに意見交換ができましたし、本日はその意見を踏まえた素案について意見交換をしたいと思っております。本年度最終3月18日ってことで決まっておるわけでありまして、本年度の最終の第6回に向けて、そのためにどうか積極的なご発言をいただけたらありがたいと思います。本日はどうぞよろしくお願い致します。

進行 後藤会長ありがとうございました。それでは報告・説明事項に進みますが、以降の進行は後藤会長にお願いをしたいと存じます。

#### 4 報告・説明事項

##### (1) 第4回審議会までの振り返り

後藤会長 それでは、皆様よろしくお願いたします。報告、説明事項に入ります。最初(1)になりますが、第4回審議会の振り返りの方を事務局の方からお願いをしたいと思います。

事務局・倉田係長 学校教育課教育企画係の倉田と申します。それでは私から、第4回審議会の振り返りということで、第4回審議会の内容についてまとめをご説明いたします。本日あらかじめ配付をさせていただきました資料No.1、こちらをご覧くださいと思います。こちらの資料につきましては、前回第4回審議会の際に第3回審議会までのまとめをお出しいたしましたけれども、そこに第4回審議会のまとめを追加したものとなっております。それではこのNo.1の14ページをお開きください。

第4回審議会では第3回までの審議会の振り返りを行った上で、飯田市立小中学校の今後のあり方に関する方針のたたき台をご説明し、意見交換を行いました。15ページをご覧ください。た

たたき台についてご説明した内容の要旨を記載しております。特に重要なポイントとしましては、飯田市立小中学校における教育の特徴として、小中連携・一貫教育、飯田コミュニティスクール、飯田型キャリア教育、この三つの取り組みを推進してきたところでございます。そして飯田市の小中学校を取り巻く背景や学校の持つ役割、これまでの取り組みの成果、審議会の皆様のご意見を踏まえまして、これまでの小中連携・一貫教育をさらに確かなものにし充実・発展させていくため、現在の中学校区ごとの小中学校を小中一貫型小中学校として九つの学園とするという考え方をたたき台としてご提案をいたしました。この学園では9年間の一貫した学びと、小中学校の垣根を超えた教職員の連携によって学力向上等を目指すこと、また飯田コミュニティスクール、飯田型キャリア教育の取り組みを生かした特色ある学びを特設カリキュラムとして設定し、地域とともに進めていくこと、こういった考え方で進めてはどうかというのがたたき台の考え方となります。また施設の配置については、当面は現状の小中学校施設を活用した施設分離型の学校としてはどうか、ということもたたき台としてご提案をしております。

このたたき台につきまして意見交換をいただいたまとめが 16 ページ 17 ページとなります。委員の皆様からのご意見をまとめますと、大きい方向性としてはいいのではないかといいところではありますが、説明不足の点や補強すべき点等をご指摘いただいております。主なものを振り返りますと、これまで取り組んできた教育の特徴である小中連携・一貫教育、飯田コミュニティスクール、飯田型キャリア教育の評価がきちんとできていない、この構想によって解決される課題やさらに伸ばせることを整理した方が良く、というご意見や、学校を取り巻く背景について、社会的な子供たちが置かれている状況を踏まえた内容も必要ではないかというご意見、幼稚園や保育園との繋がりや学童保育等との繋がりという視点が必要ではないかというご意見、小規模の地域においては施設配置の考え方等当てはまらない部分があるのではないかと、というご意見をいただいております。大変雑駁なまとめとなりますが説明は以上となります。よろしくお願いたします。

## (2) 今後の進め方について

後藤会長 ありがとうございます。それでは続いて(2)に入りたいと思いますが、今後の進め方について事務局の方から説明をお願いします。

事務局・倉田係長 それでは私から今後の進め方についてご説明をいたします。本日あらかじめお配りしました資料No.2資料 No. 3でございますけれども、こちらにつきましては前回の審議会でいただいたご意見を踏まえ、内容を補強修正した素案となっております。後ほど審議事項のところで内容をご説明しますので、本日はその素案についてご議論いただきたいと思います。本日いただいたご意見から、次回の審議会では第1次答申ということでまとめをしていただきたいと思いますと考えております。答申をいただきましたところで、教育委員会としての方針を作っていくという流れで進め方を考えておるところでございます。よろしくお願いをいたします。

後藤会長 ありがとうございます。それではただいまのことについては協議の中でまたぜひお願いをしたいと思います。今ご説明いただいた報告・説明事項、前回の振り返りのところも含め

て何か皆様方からお聞きしたいこと、ご意見等ございますか。委員の皆様いかがでしょうか？特に報告・説明についてはよろしいですかね。ありがとうございます。

事務局・福澤課長 すいません。先ほど確認し忘れておりました誠に申し訳ございません。事前に資料を配付してございますが、本日お手元にお持ちいただいているのでしょうか？もしないようでしたらこちらに予備がございますので、ご準備をさせていただきます。申し訳ありません。その確認でした。皆さんどうですか。よろしいですかね。はい、ありがとうございます。

後藤会長 それでは（３）その他ですけど、皆様からこの項目のところで何かございますでしょうか？よろしいでしょうか？はい、ありがとうございます。それでは報告説明事項のところはこれで終わりたいと思います。ありがとうございます。

## 5 審議事項

### （１）飯田市立小中学校の今後のあり方に関する方針（素案）について

後藤会長 それでは審議ということに入りますがよろしく申し上げます。飯田市立小中学校の今後のあり方に関する方針(素案)資料No.2でございますけれど、これについて事務局から説明をお願いいたします。

事務局・倉田係長 それでは飯田市立小中学校の今後のあり方に関する方針の素案ということで、前回ご提案しましたたたき台から委員の皆様のご意見を踏まえて補強修正をした資料となりますけれども、その内容をご説明いたします。資料No.2をお開きいただきたいと思います。

まず2ページをお開きください。飯田市立小中学校を取り巻く背景についてでございます。前回取り巻く背景について、児童生徒数の減少や施設のことだけではなく社会的な要因もというご意見をいただいておりますので、ここでは学校教育そのものがどのように変わってきているのかということ为背景として入れさせていただいております。2ページ、①の1というページになりますけれども、こちらでは学習指導要領、これは学校教育における教育内容の基準となるものですが、そのことについて触れさせていただきました。平成28年に学習指導要領が改訂をされておまして、小学校では2020年度、令和2年度、中学校では2021年度、令和3年度から全面实施をされている内容となっております。ここに入っている図ですけれども、この図については文部科学省のホームページに掲載されているものとなります。この中で改定にあたっての理念としては、図の中ほどにあります、よりよい学校教育を通じてよりよい社会を作るという目標を共有し、社会と連携協働しながら未来の作り手となるために必要な資質・能力を育む社会に開かれた教育課程の実現ということがいわれており、社会との関わりということが非常に重視された内容となっております。その上には新しい時代に必要となる資質能力として何ができるようになるかと整理された柱が三つあり、「学びに向かう力、人間性」と「生きて働く知識・技能」、「未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等」とされています。また図の下の方では何を学ぶか、どのように学ぶかということが整理されておまして、特にどのように学ぶかという点では、必要となる資質・能力を育成するためには知識の量を削減せず質の高い理解を図ると記載されておりまして、これは言い換えれば知識は必要ではありますが、単に知識があるというだけではな

く深く理解していることが必要であるということになります。そのために主体的・対話的で深い学びの視点から学習過程を改善していくということが記載をされています。現在の学習指導要領はこういった教育内容に変わっているということをこのコマで説明をしております。

そして3ページをご覧いただきたいと思いますが、こちらについては第2回審議会の際にお示しをした令和3年1月の中央教育審議会の答申内容をまとめたもので、そこに若干の追記をしたものです。改めてご説明しますと、2020年代を通じて実現すべき令和の日本型学校教育の姿、これは答申の中で全ての子供たちの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びの実現と整理されております。個別最適な学びと協働的な学びの内容はそれぞれこの中をご覧いただきたいと思いますが、先ほど学習指導要領の改訂の中で出てきた、主体的・対話的で深い学びという言葉、これを実現していくための授業改善には、一番下の囲みに二重丸で記載をした通り、従来の一斉授業から個別最適、協働的な学びへ転換していく必要があるとまとめられます。従来のような教師が一方的に一斉に指導しそれを単に知識として覚えるという授業ではなく、それぞれの子供たちが個々の興味・関心を持って主体的に学べるようにすることや、子供たち同士や大人も含めて話し合いをしながら深く理解をしていくこと、そういった授業が求められているということになります。このように求められる学校教育の姿そのものが変わってきているということが背景としてある一方で、4ページのような、児童生徒数の減少、こちらは前回も入っていたものですが、児童生徒数の減少ですとか施設の老朽化といった背景もあるということでございます。

続いて5ページ以降には飯田市における教育の特徴をまとめております。前回の審議会の中でも、これまでの取り組みをどう評価しているかという点や、学園を作るという構想にどう繋がるかといったご意見をいただいております、それぞれの教育内容を改めて評価するものとなります。

まず6ページからは、小中連携・一貫教育の経過・評価と、今後についてとなります。6ページの取り組みの契機と当初目的、取り組みの変遷、7ページにこれまでの取り組みの柱と状況の変化としましてこれを9年間の教育課程、授業の改善、人間関係づくり、組織の構築、この4つの柱で整理をしております。この内容につきましては後ほどまたお読み取りいただければと思います。

8ページをご覧ください。このページにはこれまでの取り組みの成果と課題を4点整理しております。まず中1ギャップについては、成果として中1ギャップによる不登校生徒や中学生全体の不登校生徒の在籍比は、国県平均に比べて低い傾向で推移をしてきておりますが、課題としてコロナから状況が一変し、不登校児童生徒が急増、特に小学校の高学年での不登校児童が増加しているという課題が生じております。続いて中学生の学力についてですが、平成29年までは全国学力調査の結果が概ね国県平均で推移をしてきておりましたが、中学生期に伸び悩む傾向は引き続き課題であること、さらに一律一斉の授業ではなく主体的・協働的で深い学びや個別最適な学びを重視した授業改善が必要になっている、という課題が生じています。教職員については、中学校区内の各種合同会議の定着によって、9年間の児童生徒の成長をどう支えるのかを当たり前に話し合える土壌ができたという成果がありますが、これも連携中心の緩やかな取り組みであったことから、教職員の異動によって積み重ね型の取り組みにはなりにくいという課題があります。そして取り組み全般としては、小中連携・一貫教育が徐々に定着し成果と課題も見えてきた

のですが、取り組みが多岐に広がってきており、何を重視していくのかというところが見えづらくなっているということ、またコロナ禍の中で取り組みが大きく停滞したということが課題となっております。

9ページには今後の取り組みの方向性を記載しております。先ほどの課題の中でも、コロナ禍による取り組みの停滞という課題をお話しましたが、まず令和5年度6年度を取り組みの再構築の期間と考えておきまして、教育活動の再構築と急増した不登校児童生徒への一体的な支援を進めていきます。そしてその先には、より確かで実効性が高い小中一貫教育の実践段階へ移行していきたいと考えております。特にポイントとなりますのは、国の制度に基づく小中一貫校として学園として規定をすること、推進体制を充実していくということ、学力の部分では9年間の発達段階に応じて系統的で能動的な学習、「ムトスの学び」を行っていき、中学校卒業のときには学力と生き抜く力の基礎を身につけることができるようにすること、その土台として飯田のキャリア教育を取り組みの柱に位置付けて、学校・地域・家庭が協働して支援をしていくということになります。

続いて10ページからは飯田コミュニティスクールの経過・評価と今後を整理しております。この取り組みの目的は、地域に開かれた学校作りを行うということ、子供たちのために学校教職員・保護者・地域住民が力を合わせて学校運営を行うということ、地域の実情や特徴を生かした特色ある学校作りを進めるということ、この取り組みを通じて地域と学校のお互いをより良いものにしていく、よい地域がよい学校を作りよい学校がよい地域を作っていく、そういった取り組みを目指すということが目的となっております。そしてこれを進めていく組織が学校運営協議会で、特に飯田市の場合は公民館職員をこの委員にしているのが特徴となっております。

11ページには、これまでの取り組みの成果と課題、今後の方向性を整理しております。まず成果としては、学校運営協議会が定期開催され学校運営方針の承認や運営の検証に関する協議が当たり前にできるようになってきたということ、また学校管理職や地域代表が替わっても継続的な学校運営が行われるようになってきたということ、学校と地域の関係が良好になり情報共有やお互いの協力が進んだということ、さらに中学校区単位での学校運営協議会が組織された地域も出てきていることなどが挙げられます。なお、ここで4中学校区というふうに記載をしていますが、10ページの資料の中にありますが、飯田西中、竜峡中、鼎中、遠山中、この4中学校区で中学校区としての学校運営協議会が設置をされているところを記載していますが、竜東中学校区につきましてもこれに類する組織が既にありますので、実際には5中学校区で中学校区としての学校運営協議会があるということで、ここは資料の訂正をお願いいたします。それで一方で課題としましては、コミュニティスクールの目的や学校運営協議会の役割等について一般教職員や保護者、地域住民がまだまだ関心を持っていないというところがあり、関心を高めていく必要があるということ、さらにコロナの中で学校支援ボランティアや地域と学校の協働活動が休止・縮小せざるを得ない状況となってしまったということが挙げられます。今後の取り組みの方向性として、令和5・6年度は会議や活動の再構築の期間として、さらにその先で小中一貫教育の取り組みにあわせて、学校、保護者、地域住民が力を合わせて学校運営を行う協働活動を活発化させるということ、地域の実情を踏まえた特色ある学校作りを進めるということを考えております。特に地域と学校の協働によって豊かな学習環境をどのように作っていくのかという点が重要な取り組みとなります。

続いて 12 ページをお開きいただきたいと思います。12 ページからは飯田のキャリア教育の経過・評価と今後を整理しております。前回までの資料では、飯田型キャリア教育としておりましたが、飯田型という名称についてのご意見もいただいておりますので、ここでは飯田市でこれまで取り組んできたキャリア教育ということで飯田のキャリア教育と表記をさせていただきました。まず目的としては、子供たちが変化の激しいこれからの時代を生き抜けるよう、自ら生き方を切り拓き、人とつながって生きることができる力を培うということ、またふるさとに心根をおいて未来の地域の担い手や支え手となる人を育むということとなります。取り組みの経過については後ほどお読み取りください。

13 ページにはこれまでの成果と課題、今後の方向性を記載しております。まず成果としては、中学校の職場体験が多くの上記の事業所の協力によって実施され、いくつかの小学校でも実施されるようになったということ、また、各学校でキャリア教育の視点に立った系統的な教育活動が行われるようになったということ、コミュニティスクールの取り組みとして、地域の皆さんとの協働も進んだということ、各中学校区で小中連携・一貫の指導指針を作成し9年間の取り組みの基礎ができたということ、保育園等での自然保育や高校生の探究的な学びが活発になってきており広がりを見せてきていること、等が挙げられます。しかし課題としては、キャリア教育を職場体験学習、職業教育のことというように狭い意味で捉えている方も多ということや、コロナの中で取り組みの停滞が生じてきているということが挙げられます。今後の取り組みですが、令和5・6年度は活動の再構築を進めるということ、そしてキャリア教育の目的や意義がなかなか浸透していませんので、改めて浸透を図るということ、小中9年間さらには園から小中高校の15年間で、発達段階に応じて系統的なキャリア教育を進めるということ、特に小中一貫の学園ではキャリア教育を柱に据えた特設教科を設けてコミュニティスクールの取り組みと連動しながら地域実態に応じたキャリア教育を進めるということを考えております。

14 ページをご覧ください。これら3つの飯田市の教育の特徴と今後の取り組みの方向性でも出てまいりましたが、飯田市の教育の特徴を生かしさらに発展させていくという考え方を「飯田の学園構想」ということで改めて整理をいたしました。これまでの飯田の教育の特徴について成果もありますが、新たな課題が生じているというところは先ほどもご覧いただいた通りです。特に小中連携・一貫教育の成果と課題の上に立ち、新たな課題も捉えながらより確かで実効性の高い一貫教育を進める段階へと移行し、確かな学力、生きる力、地域の担い手・支え手を育むという構想です。この図で矢印の絵がありますが、これまでの小中連携・一貫教育は小学校と中学校の接続部分を強く意識した内容でしたが、教育のあり方や児童生徒の状況等の変化が生じておまして、これから目指す姿として、9年間の一貫した学びを進めていくということを考えている構想でございます。そしてこの構想の柱となってくるのが飯田のキャリア教育と飯田コミュニティスクールとなります。この2つはそれぞれ関連したものですのでこの四角の囲みを繋げてありますが、ポイントとなりますのは地域資源や地域課題を教材に、地域ぐるみで地域の特徴を生かした取り組みとしていくということ、そのことによってよりよい地域づくり、よりよい学校づくりにつなげていくということでございます。

続いて 15 ページをご覧ください。この図は前回の資料でもお示しをしたものですが、令和5年5月1日現在の児童生徒数を追記してございます。なお、色が見にくくて大変恐縮なのですが、

丸山小学校と龍江小学校については中学校区が分かれてしまうということで、現在の住所地から児童数を推定して分けた数字となっておりますので、ご承知おきをお願いいたします。

16 ページをご覧ください。16 ページでは学校施設の配置について記載をしております。この学園構想では、まずスタートとしては現在の小中学校の施設を用いた施設分離型の小中一貫型小中学校からスタートをします。そして今後の児童生徒数の減少や、学校施設の老朽化が著しい学園から地域特性等にも配慮しながら施設配置形態を検討していく考えです。17 ページ 18 ページには、参考資料として小中一貫教育についてと、小中一貫教育の推進に向けた新たな学校形態を掲載してございます。

資料 No. 2 については以上でして資料 No. 3 の方をご覧くださいと思います。こちらも前回もお示しをした学園構想全体の概念図ですけれども、目的等を修正させていただきましたのと、わかりにくい表現となっていた部分を修正したものでございます。私からの説明は以上となります。よろしくお願いたします。

後藤会長 ありがとうございます。資料 2 資料 3 に関わって説明をいただきました。既にお手元に資料が届いて目を通していただいているかと思いますが、特に質問とか項目に分けてということを考えておりませんので、意見がどのような形で出てくるかでちょっと重点をかけていこうと思いますので、よろしくお願いたします。説明をいただいたところのどこからでも結構でございますので、質問でも結構ですし、ご意見等も含めて、それぞれそれこそ忌憚のないご発言をいただけたらありがたいと思います。よろしくお願いたします。

小澤委員 千代の小澤でございます。16 ページなのですが、飯田の学園構想における学校施設の配置についてということで「現在の小・中学校の施設を用いた小中一貫校からスタートします」このことなのですが、これを具体的にするという話なのですが、現在千代には千栄小学校と千代小学校、2 つあります。保育園も 2 つあるんです。それで園児数が少ないってことで、保育園の方は具体的にもう一つの千代の方の保育園にしたいっていうようなことで話が進んでおります。それで小学校につきましては、もう既に複式学級に両方なっているんです。ちょっとわからないんですけどお聞きするんですが、もしこのままでいくとすると、実際に本当に一つの学校にするわけじゃなくてこのままで行くってことですから、そうすると当然複式学級をそのまま維持しながら、いつしか合併できるだろうなってそういうことになるってことなんですかね。というのは千栄の保育園が千代の保育園に入るんです。一緒になっちゃうんです。それで今のままでいくと、小学校になると千栄の小学校へ行く、千代の小学校へ行く、こういうふうに分れるんですよ、また。こんなことは普通ではあんまりないですよ、はっきり。現実的に。どうも聞く中では段階的には今もう小中一貫全てもいいですよっていうそういう動きで千代の人たちはおるんですけど、飯田市全体を見ればそういう順番のないようなことでもやるってこともあるけど、実際自分たちのところは、もうできればね、複式学級もできるだけしないようにしたいっていうことなんです。だけども外から人を入れてきてどうだこうだっていう話じゃなくて、千代の中でできることであれば、早めにそういうようなことをしていった方がいいんじゃないかなというふうに思うんですが。ちょっと具体的なスケジュールがわからないんで、このままでずうっといって、例えばね、今度答申して、その次に 2 年目にまた答申して、いいよと言ったら何年後にできるんですか

というそういう話なんですけど。だけど実際には新しい建物を建てるのか建てないのかということについては、この説明の中にありましたように、その内容を見てそこに適合しているかどうかについてやりますよってこういうふうに書いてありますから、それが該当になるのかどうかってということもちょっとわからないんですが、ちょっとお聞きしたいんですが。

後藤会長 はい、ありがとうございました。資料2、16ページの2つあるポツの上、一番上のポツについて。このままいきますよという説明になっていたところを、今、ある地区の話が出てきました。特にこれについて事務局の方で何かありますか。はい。はいどうぞ。

事務局・福澤課長 はい。ご意見いただきありがとうございます。その2つ目のポツに記載させていただいておりますけれども、地域特性等に配慮しながら地域と協議を重ねた上で検討を進めていくと記載させていただいております。ですので、全ての9つの学園が一律に進むということではないことも想定させていただきながら、一旦はこういった学園構想で進んでいくということで、方針が固まればその次の段階といたしましては、それぞれの地域の皆さんと協議をした上でそこに施設の配置形態がどのようになっていくかということは、それぞれの学園ごとのスピードの速さ遅さということはあるであろうということは考えております。ですので、今何年度までにこういうことということは申し上げられませんが、今、小澤委員さんがおっしゃられたそのようなことも十分考慮しながら、そのスピード感に関しては、それぞれの地域と協議を重ねてなるべく地域の皆さんのご意向に沿えるように進めてまいればと考えております。

後藤会長 ありがとうございます。小澤委員さん、どうぞ。

小澤委員 そうすると例えば建物を建てていただきたいとかいうのも早い者勝ち？そういうことでよろしいですか。

事務局・福澤課長 建物を新たに建てるですとか、あるいは今ある建物を改修ということも必要に応じて出てくるでしょうから、そこは早く言ったもの勝ちということではなくて、そういった施設の配置形態につきましても、当然改修にも時間がかかり今日言って来年度からできるというものではございませんので、そういった意向を踏まえ、どのようなスケジュール感で進められるかということは個別にまたご相談をさせていただくことが出てくると考えております。

後藤会長 言った者勝ちではないってことです。ただ要するに今お聞きすると、かなりこういう方向で歩みを始めているというような感じさえもちょっと伝わってきたわけでもありますけれど。

小澤委員 保育園が先にね、もう一緒になっちゃうと。そこへ千代の方の保育園にいて今度小学校に入るときは、別にまた千栄と千代に分かれるようになるってそういう状況。だからいっそ転校しちゃえばいいんだ、みんな。そういうやり方をしちゃえば。そういうのもいいんですかね、極端なことを言うとね。

事務局・福澤課長 そのようなことも一つの考え方として十分あると思いますので、そういった状況を今お聞きをいたしましたので、また近いうちには学校運営協議会等が開催されたりということもあるかと思しますので、ぜひそういったところは私が伺って意見交換させていただければと考えております。

後藤会長 はい、ありがとうございます。それでは小澤さん一応ちょっとここで止めさせていただいて 16 ページの今話題になりました2つのポツですね。小中一貫型小中学校からスタートということ、今事務局からも説明がありました施設の問題について、この部分で何かありますか、他の皆さんで。いいですか。それじゃまた出てきたらお願いしたいと思います。その他のことで結構でございます。どうでしょうか。大場委員さん。

大場委員 東野の大場です。特に小中一貫校、学園というものに反対ではなくて、実は先だってある小学校の先生たちと研修会でお話をしたんですよ。その中で、不登校の問題だとかいろいろお聞きしました。先だって会合がありまして熊谷教育長にもお話したんですが、1人の先生、5年生なんですが、37人持っとると。不登校やいろいろおると。それで大変っていうか負担。先生に、ぶっちゃけた話、自分で満足に子供たちを見てやれる人数、どのぐらいですかって聞いたら、本当にぶっちゃけた話だと20人だって言うんですよ。その先生は女性だったんですが、もう1人5年生の男性の先生にも聞いたんですが同じぐらいの人数。その男性の先生はちょっと人数が3人か5人ぐらい多くて25人ぐらいっていう話なんですが、小中一貫になっていくと、学校が一緒になったりする場合だと人数が増えるっていうことが当然考えられると思うんですよ。その研修会と一緒にいた学校の先生だとか校長先生とも言ったんですが、逆に言うとなんとなくこの合併して人数を多くすることは先生に対する逆行じゃないけども、結局そんなような傾向にもなるんじゃないかっていうようなね。小学校一つだけで聞いただけなのでわからないんですけども、相当今先生たちが負担を感じているっていう感じは否めないんじゃないかなっていう気はしますね。ですから、反対とかどうこうじゃなくて、やる中でやっぱ人数の面だとかいろいろ考えてやっていかないと、一貫教育になってもそこら辺で何となくひずみが出てくるんじゃないかなっていう感じはします。

後藤会長 学級の子供の数のことで情報提供いただきました。何か関係してございますでしょうか？教職員の数にも関わる内容でありますので。

大場委員 先生の定年延長すりゃいいんじゃないかって言ったんだけど。

後藤会長 はいそれじゃ他の点で結構でございます。いかがでしょうか？はいどうぞ、山浦委員さん。

山浦委員 どのページっていうわけではないんですけども、少し総花的な話になってしましますがご理解ください。第4回のこの委員会の議論を受け、私達委員のいろいろな意見を取り込む

形で今回の資料は事務局の方で丁寧に修正をかけてくださり、提案をしていただいたとそんなふうに感じています。その中で、これまで飯田市でやってきた「小中連携・一貫教育」や「キャリア教育」、それから「コミュニティスクール」の3つの事業のベン図を描いたときに、その中心に飯田の子供たち、つまり学習者がいて、これまで子供を主語にした教育を飯田市としては取組んできましたと読むことができます。

そういう中であって、いろいろな課題も出てきたり、それから社会情勢も変わってきたりして、これからの学習指導要領（CS）はいわゆる点数主義につながりやすい「学力」ではなくて、非認知能力も含めた「資質・能力」の育成が求められていると変わってきている状況があると思います。そこで、飯田市も少しシフトチェンジをしていきたいと思いますというところで、先ほどの3つの事業を発展的に改善していこうとする方向性が提案の中にはあると理解しています。

そう考えますと、9つの学園構想は何のためにするのかってところを、やはりもうちょっと中心にいる子供の学習者の立場に立って考えていきたいと思います。私も9つの学園構想はともいいと思いますが、じゃあそれは飯田の子供たちの人間力や社会力をより一層豊かなものにしていく、そのためにこの9つの学園構想はどうしても必要なんだ、というようなことで議論していきたいと思います。

例えばコミュニティスクールの協働体制の中にあっては、一人一人の子供たちの対話的な学びをより一層充実させるものになっていきますとか、あるいはキャリア教育は一人一人の学習者の興味・関心をさらに伸ばしていくことになるので、個別最適な学びの中で自分のペースで挑戦したいものを、それを地域がしっかり応援しながらやっていくようなキャリア教育をさらに充実させていきますとか、あるいは小中一貫教育であれば、能動的な学びを市教委は「ムトスの学び」と位置付けていますが、その「ムトスの学び」が探究的なものであるならば、教科という枠を飛び越えて、教科が縦糸であれば横糸には実生活や実社会っていうものがあるので、そういうものの中で、教科横断的な、あるいは教科融合的な学習というものを推し進めて、「ムトスの学び」をさらに充実させていきますというように位置付けたいと考えます。

そのようなねらいというか願いがあって、小中一貫教育やキャリア教育、コミュニティスクールをベン図で表したときに、それぞれがより一層濃くなって、その中心にいる飯田市の子供たちはより豊かに育ち、自立していくというような何かそのようなことが、皆さんに見える化し、イメージを持つことができるようなものが欲しいなっていうことを感じました。話しがちよっと総花的で申し訳ありません。

後藤会長 ありがとうございます。前回は学力の問題がいろいろと出てきましたけども、まさにそれに関わる問題で、全国学力テストだけで学力を捉えているわけじゃないと思いますけれども、そういう今のご意見だと思いますが、説明にありました1、2、3、小中一貫教育、飯田コミュニティスクールそれから飯田のキャリア教育、この位置づけがもう少しこういうふうにといいようなご発言をいただいたわけですから、真ん中に子供を置いてその子供を育てていくときの、これはこの中学校区の一つの学園構想でどうしてもやらねばならないことなんだっていうような強いものが必要じゃないかというお話だったと思いますが、関わって少し意見交換しますか。いかがでしょうか？いかがですか。何かご発言あれば。

(発言なし)

ちょっと進行がまずかったかな。いかがでしょうか？ちょっと乱暴な言い方をしてしまえば、飯田のキャリア教育も、それから小中一貫の教育も、それからコミュニティスクールの関係もそうですが、10何年やってきて、これを何とかもつとするために必要な学園構想なんですよ、というようなことが本当に多くの市民の皆さんに伝わるといいなということを私今聞いていて思いました。なんで学園構想を出してきたのっていうその背景は、その3つの特徴ですね、これを何としても実現していきたいんだっていうこの強い思いが必要ではないかと、こんなふうに聞いたんですが、山浦さんどうですか。ちょっと受け取り違ってるかな。

山浦委員 後藤会長に補足いただいた通りです。もう少し言わせていただくと、飯田の子供たちがこれからは先ほども説明があった通り、今までは先生方や大人から言われたことに対してそのまま従うような形でやってきたんだけど、これからは一人の自立者としてやっていかなくてはいけない。そうやってきたときに、その学ぶ内容だとか方法までも、これからは自分の学びであると自覚してもらいたい、自分が学ぶ主体であるというところまで自覚するような子供たちにしていきたいなっていうことが、義務教育9年間や幼保小中高等学校15年間の継続した学びの最終段階にあると思うんです。そのような子供たちを育てていくために、この飯田市で今までやってきたこの3つの事業のベン図をより強固に重ね合わせることによって、9つの学園構想がさらに生きてくるんだぞっていうようなところが市民に伝わっていくと、市民もそれならば地域ぐるみで特色ある学校づくりを進めていこうとする機運になるのかなと思いついてみました。

後藤会長 ありがとうございます。どうぞ皆さん、関わっていかがですか。はい、どうぞ。玉置委員さん。

玉置委員 南信濃の玉置と申します。今のお話とちょっとずれるかもしれませんが、私は個人的には中学校区の再編っていうか学園構想については、私どもの地域としてはもうせざるを得ないという状況なので、飯田市全体から見るとかなり進んでいる部分があって、やらざるを得ない状況にあると。これはもう現状認識。

もう一つはお聞きしたいんですが、資料No.3で9つの学園を作りますという説明の中で、いくつか前回と変わったところがあるんですが、これを文章整理っていうんじゃなくて、考え方が変わったようなところも私はあるように見受けられますので、ちょっと変わったところをですね、詳しくちょっと説明をしていただくとありがたいなということが一つ。

そしてもう一つは、先ほどから話が出ているキャリア教育っていうのを資料に基づいて理解するとするならば、どうもコミュニティの考え方に包括されるような内容じゃないかなと思うんですね。飯田のキャリア教育っていうふうに飯田を冠につけるとしたらですね、キャリア教育をもう少しわかりやすく説明するような内容にしてもらいたいなと。一つは、キャリア教育は子供たちの成長に伴って、小学校は小学校のキャリア教育があるし、中学も中学のキャリア教育が、もっと細かく言うと、中学校の1年生、2年生、3年生のキャリア教育があるのは当然だろうと思うんですね。2回目の審議会のときに、どなたかがやはりリニアで考えたことを取り入れてもらいたいというようなご意見があったと思いますが、そういうようないわゆるグローバルな考え方をキャリア教育に入れることはできないのかなっていうような感じが私はするんですね。ここで

書いてある飯田のキャリア教育で星が二つあってですね、一つ目もそうなんですが、ふるさとに心根をおいて未来の地域の担い手や支え手になっていく人を学校や地域や家庭が力を合わせて育みますと。それから二つ目のことも、これはコミュニティの中に包括されるんじゃないかなってというような感じは私はするんです。それはちょっと違うよって言われるんだったらまたそれで構いませんけれども、少しキャリア教育っていうのについて考えていただきたいなっていう部分をお願いしたい。

後藤会長 ありがとうございます。それでは最初に資料No.3のこの1枚ものの方の、ここをもうちょっと詳しくお話できるかということで、先にそれをやりましょう。そしてその後、キャリア教育のことまたコミュニティとのことも関わることでちょっとご意見を聞いていきたいと思えます。それでは事務局、最初に資料No.3のことについてもうちょっと説明を丁寧にしていただければと思います。

事務局・倉田係長 資料No.3、前回と変わってきた部分ということでご質問をいただきました。まず大きく変わった部分としましては、目的の部分ですね。目指していく姿については変わらないわけですが、背景といいますか前回の審議会の中でもご指摘いただいた課題、今まで取り組んできたものについて課題をどう捉えているかというところがございました。先ほどのこちらから説明させていただきました部分でも、飯田市でこれまで取り組んできた教育内容、成果もあるけれど新たな課題が生じてきているというところもお話させていただきました。そういった新たな課題への対応を視野に入れて小中一貫教育を実践をしていくというところが、この資料No.3の中では一番大きく変わった部分というところでございます。背景部分をもう少ししっかりさせたということですね。

あと内容としましては、前回の資料に比べますと内容的には大きく変わってはいないのですが、文章をもう少し整理をしたり読みやすくしたり、わかりやすくしたというところがほとんどでございます。例えば中ほどですが、小中一貫校では通常の教科以外に特設教科を設定することができますと書いてございます。これは前回特設カリキュラムという表現をしておりましたけれども、カリキュラムという言葉がなかなかわかりにくいということがありますので、そういった特別な教科を学園の中に作っていけるんだということをここに表現をしたりですとか、そういった部分が変わったところでございます。私からは以上です。

後藤会長 玉置委員さんいかがですか。

玉置委員 例えば現在の飯田市の小中一貫教育の②のところですね（資料No.3 中ほどより下の囲みの中）、小中一貫教育は現在の小・中学校の施設を用い、先ほどのお話にも出ておったかと思いますが、小中一貫校からスタートします、というふうな文面になつとる。前のときには、小中学校施設を別々に置いた施設分離型でスタートします。これがこういう形になったっていうことは、先ほども話が出たんですが、既存の現在の施設を使う、新しくは作りませんよっていうことが前提で、こういう文章を書かれるとそういうふうになってしまうんですが、そうでないとした

ら、地域の実情にというふうには先ほど言われたんだったらそのような表現にしておいてもらえればいいのかなど、私もこれを聞こうと思っておったんですね。

後藤会長 お話はわかりましたよね。はい、どうぞ。

事務局・福澤課長 今、玉置委員からご指摘をいただきました、いわゆる今の施設を用いて新しいものは作りませんというふうには読み取れますが、というそういうことだと思います。そういった具体的なことを意図してこういう表現をしたわけではございません。この学園ということでスタートするまでには、そんなに何年も先に学園がスタートするということを想定していないものですから、近い将来すぐに箱物がポンと立てられるという物理的な状況でもないものですから、「当面はという表現もよくないよ」ということは前回ご指摘をいただいておりますが、まずは今の施設を用いてスタートしますが、そこにつきましては地域の皆さんの意向あるいは現状を踏まえて新しい施設が必要であれば、最低建てるには3年なり何年なりという設計、準備、用地を取得してということも考えられますので、まずは現在の小・中学校の施設を用いた小中一貫校からスタートします、という表現のしかたをさせていただいております。すいません。文章表現がわかりにくくて申し訳ございません。

後藤会長 ありがとうございます。玉置委員さん、よろしいでしょうか？一貫教育を、まず施設ができてから始めますって話じゃないってことだけは、今皆さんと、今もう10何年かけてやってきた連携一貫の教育を、今度はその一つ中学校区の学園でやってくと。その場合に施設については、とにかくスタートするときはこれだよっていうお話をいただいた、こういうことでよろしいでしょうかね。

もう一つの、ちょうどそこにもある①のところにある飯田のキャリア教育っていうのと、その次にコミュニティスクールとしてっていうこの部分のところにも関わるような先ほど玉置委員さんの方からご発言がありました。皆さんいかがでしょうか？キャリア教育に関わって。湯本委員さんお願いします。

湯本委員 この書いてあることと実際に自分の学校でやることがどういうふうにつながってくるのかとずっと考えてたんですけども、やっぱりキャリア教育、中学生あたりになると自分の生き方教育になってきますので、1年生はふるさと学習に力を入れていまして、それでふるさとを学びながらいくわけですけども、そのときに、当然なんですけどもコミュニティスクールの方々にうんと協力してもらいます。地域に出ていって学びますので、ですから基盤にあるコミュニティスクールで学校運営協議会の方々に頼りながら学びが進んでいくというような形になっています。それぞれ3地域ありますけども、3地域の公民館が中心になりますけども、公民館の館長さんや主事さん、それからセンター長さんが非常に協力的に学校の学びを支えていただいている。それはやっぱりコミュニティスクールがしっかり位置づいてきているからそういうことができるんだなというふうに感じています。そういう方々に助けられながら、キャリア教育が成立しているなうんとおもいます。ですので、やっぱりどっちかどっちかっていうのじゃなくて、や

っぱりそれが両方あってそれがうまく融合しながら学びが進んでるんじゃないかなってことを思っています。

それからさらにそれと小中連携・一貫の関係なんですけども、今日も小学生が体験入学で中学校へ午後来てたんですけども、今やっぱり一貫教育でやってるのは学校が別々で小中連携・一貫教育だもんで、6年生と中学校のつながりはうんとあるんですけども、それ以外の学年とのつながりっていうのがやっぱり薄いかな、ほとんどやってないなってのが現実かなというふうに思っています。だから、これが小中一貫学園構想になると、今度は学園ですから、要するに小学校1年生と中学生が交流を持ったりとか、そういう機会が今度より学びの形態が広がってくるのかなと。それは今までになかったことですので、学校の中でそういったことがいろんな学びの形態が広がっていくと、今度は最近地域もよく子供たち出てくるんですけども、その中で地域に出くると小学生と中学生が一緒になって活動する部分っていうのがうんとあるんですけども、それがやっぱり学校と地域とが行ったり来たりしながら、そういった学びがやっぱりできてくるんじゃないかなってことをちょっと描いたりしてるんですけども。ですので、先ほど山浦先生が言っていましたけれども、今まで大切にしてきた3つのことが、やっぱりよりいろんなところで融合しながら新たな学びが広がっていく、あるいは深まっていくっていうイメージは、ちょっと持っているんですけども。そんな感じがしています。以上です。

後藤会長 学園をつくる意味っていいでしょうか、このことに触れていただきましたが、キャリア教育、コミュニティスクールに関わっていかがでしょうか？他の皆さん方。

(意見が出ない)

一旦置いておきます。その他、別の視点から結構ですが、いかがでしょう。はいどうぞ、下平委員さん。

下平委員 資料No.3で目的のところに星印が3つあって、一つは学力、もう一つは生きる力を育む、もう一つは地域の担い手を育てるっていうことにこの目的がおかれてますけど、こういったものが達成できているかっていうことの評価ということ、やっぱりやっていく必要があるかなってふうに思っておりまして、学力や体力は数値化できて、来年どうなっているか去年と比べどうなってるかってことはわかりやすいと思いますし、例えば将来の担い手、飯田市で育った人がどれだけ飯田市に残るか、もしくは外に行った人がどれだけ戻ってくるかっていう評価の仕方でもできると思うんですけど、なかなか生きる力の評価のしかたってのは難しいと思いますが、こういったところの評価のポイントっていうのは、目的を立てるからにはやっぱりそれがこの学園を立ち上げたことによって達成できているのかどうかっていうのをやっぱり見ていく必要があると思うんですよ。それは何でもそうだと思うんですけど、そういった点について今の時点で何を評価するかって難しいとしても、やっぱり評価をしていくっていうことは重要なかなというふうに思っています。

後藤会長 ありがとうございます。資料No.3の右上の目的というふうに書かれているところの星印3つに関わってご意見がありました。皆さん方からもちょっとこの3つに関わって意見交換してみたらどうかと思いますがいかがでしょうか？学力、確かな学力、生きる力。ちょっとニュアン

スが違いますが、将来の担い手とありますが将来っていうのは社会人になってからの話なのか、その辺もよくわかりませんが、そのことについてご発言があったんですがいかがでしょうか？どうぞ。

下平委員 例えばその行政としてこの学園を構想したことによって、例えば支出が減ったとかですね、場合によっては教育者の負担が減ったとか、もしくは地域のコミュニティの密度が高くなった、例えば催し物や行事が多くなったとか、何かわかるようなことを少し経年的に見ていく必要があるのかなというふうに思います。今皆さん議論されていると、どうしてもビジョンであったりとか概念であったりとかっていうところにどうしても意見が出ていますけど、それをもう少し形になったときにわかるような視点をこの委員会で持っていった方がいいのかなというふうに考えています。

後藤会長 ありがとうございます。他の委員さんいかがですか、ここに関わりまして。事務局の方で冒頭説明をいただいた背景の一番でしたか、国の考え方のところのやつを図にくださった、そこにここでいう生きる力に関わるものもあるだろうと思いますけれども、今実際にどのように評価するかっていう、そういうご発言がありましたがいかがでしょうか？いいですか事務局で。

事務局・松下統括 下平委員さんの方から、生きる力をどんなふうに指標化したり客観的に把握したりするのかというご質問でしたけれども、これについて今も一つの指標にしているのが、全国学力学習状況調査という全国一斉の調査がありまして、ここでは統計的傾向を把握するというそういう調査ですけども、この中では例えば人の役に立つ人間になりたいと思うかどうかという自己有用感といったような指標がありますし、あるいは自分にはよいところがあると思うかどうかという自己肯定感という指標がありますし、さらには将来の夢や目標を持っているかっていうそういう指標もあります。これは直接的にそれが生きる力に直結するかということではないですけども、やはり自分自身がやっぱりやればできるよねっていう自己肯定感を持ったり、人のために役立つ人間になりたいという有用感を持ったりということは、やはりその生きる力の一つの源になっていくので、そういったところは計れるっていうふうに思っています。

それと今回の、極端に言うと保育園から中学校に続く 15 年間の一貫したキャリア教育をすることによって、中学校の卒業証書をもらうときには、自分はこういう特性を持って、こういういいところがあるけれども、こういうまだまだ自分で変えていきたいところあるんだけど、こんなふうな形で生きていきたいんだっていうことをはっきりと自分の言葉で言えるかどうかということがやっぱり一番のポイントになるので、そういったところは例えば先生方とのやり取りの中での定性的な捉えになってくると思うんですけども、そういうことが自分の言葉で語る、思いを伝えられる、そういう子供たちを育てていくところが、キャリア教育を主軸としたこの生き方教育の一つの捉えとしてあるんであろうというふうに考えています。

後藤会長 ありがとうございます。他の皆さんでのご発言ありますか。よろしいですか。下平委員さんよろしいですか。

下平委員 今までもそういったデータのとり方ですとか公表のしかたというのは、教育委員会としてなさっていたんですか。それを見ていくと、おそらくこの学園を立ち上げたことによってその効果が過去のもの比べてどうなっていくかっていうことが比較できるだろうという、そういうふうに考えています。ありがとうございました。よくわかりました。

後藤会長 ありがとうございました。では別の視点からでも構いませんいかがでしょうか？はいどうぞ。お願いします。

山崎委員 遠山中学校のPTA会長をやっている山崎ですけども、やっぱりそれぞれの学校によってやっぱり違います。うちの生徒はやっぱりどっちかというところ控えめなんで。「はいはい」って物事を言えるほど前に出た連中はいませんが、よその学校、上村とか行くと「はい」って前出て一生懸命自分を自己表現するんだけど、やっぱりそれはその環境によって、よってっていかその指導者によって違うんで、それで何だろう、一環じゃなくても、小学校、その単位単位で何やればできるんで、そんなに9年間とか大風呂敷を広げるよりやれるところでやってた方がいいのかなって気持ちがあります。ですが、結局何だろう、うちら遠山学区としては本当に今議論されてますけども、非常に危機的状況なんで、なんていうかな、子供の立場というよりも、親の立場として、この学園もう一つの学園にもう行くしかないのかなど。他に方法があるのかなって気持ちでいっぱいです。何かいい方法があればいいんですけど、こればっかは、なんていうかな、どうしようもならないことっていうのはあるような気がしちゃって、やはりこれだけ少子化が進む中でやっぱりうちの地区はまた別個としてまた考えていただかなきゃいけないのかなど。そうしないと本当に統合の前にも休校になっちゃうかもしれない。そんな危機感があります。やっぱり残ってる在校生にとっても本当に1人2人の子供で先生にみてもらうのが本当にいいのかどうなのか。もう少しその辺をちゃんと踏まえて議論して、なんだろう、その子供たちが本当にいいように学べるように考えていっていただきたいなど。ですからこういう議論の中で口挟むの嫌らしいんですけど、本当に僕らの地域は本当に別格として見てもらってもいいかな、見ていただきたいぐらいのもんで、その辺ご配慮して、また教育委員の皆様には、本当になんていうかな、お知恵を絞っていただきたいなという思いであります。よろしく願いいたします。以上です。

後藤会長 ありがとうございました。遠山郷学園の実情というのをお話いただきました。玉置委員さん、何かありますか。

玉置委員 いや、いいです。

後藤会長 PTAの方のご発言ということでありました。表面的には遠山郷も本当に切羽詰まった問題があるっていうその学園構想なんだけれども、大勢子供がいるようなところではどうなるかと。やっぱり学園構想にしていかないと駄目だなんていうものがきつとあるんだろうなってこと

も、実は逆な思いで私も今聞いておりました。人数だけのことでなくてきっとあるんだろうと。そういう意味では、遠山郷のことを参考になるかなと。小澤委員さん。

小澤委員 はい、すいません。前の回だがその前の当初の方だと思うんですけど、学園構想については反対ではないんです。致し方ないっていうかね。もうこれはもうこういうことだなと思うんですけど、ただこういうふうなことをするときには、もうちょっと大きく、例えばね、人数の調整とか、そういうようなものは全然。もう今は学区だけで、中学学区だけで話をしておりますね。例えば今山崎さんが遠山の方で言ったとおりに、合併しても60何人。片っぱの緑中なんかは1800人。そうするとやっぱりね、子供を中心にしたときに何を教えるかとかかっていうのはやっぱり、子供対子供で話をしながらいろいろ育っていくこともあると思うんですよ。だからそういうことをこの機会にやらないと。またやってまたやってまたやって、30年かかりますよね、大きくしていくには。ですから、将来性っていうものもある程度全体で見るとても必要なんじゃないかなっていうような。今は当面のまとまりっていうだけですよね、これね、そういう言い方するといけないんですけど。こういう機会そんなに何回も何回もやるわけじゃないと思いますので、できればその本当の将来性の学区っていうのはどういうものなのかなっていう気はするんです。

というのは、先ほどから言ってるみたいに、あんまり人数が多いところは先生が見れるのかどうか。小さいところは小さいとこで、確かにね、うち複式学級で両方やっています、小学校は。それは小さい学校で先生がみんなの子供の感情までわかるんです。こないだ緑ヶ丘の先生が俺は子供の全員の名前を覚えてないよと、こういう話をしております。当然だと思います。こないだ竜東中学校の音楽会があったときに、子供さんが1人いじめられたというんじゃないけど、先生が言ったら校長先生が出て話をした。1人に対して校長先生が出てきて話ができるっていうのがやっぱりその小さな学校の良さ。ただ、今度小さな学校のよさもあるんだけど、それじゃ競争力があるかどうかでことになると、他のことは絶対知らないですよ、他の学校のことは。ですからある程度の人数を、将来的にはこのぐらいのことまでしたいな、1クラス何人とかかっていうのはやっぱりそういうものに持っていけるような学校にしないと。今度1年かかってこれだけで。これだけの話じゃないような気がするんです。もうちょっと先のことまである程度出してかないと、またこれじきにつまると思うんです。というのはもう千代の方ではね、子供さんが少なくなりすぎちゃって、もうぼつぼつ学校へ入ってくる人が少なくなっちゃってきちゃうっていうか、そうやってきちゃうんです。そうすればもう今の遠山さんじゃないけど、遠山中学と同じで、休校か何かになってっちゃうっていうかそういう格好かなと思います、今のままでいくとね。ですからできるだけ自分としてはある程度こういう機会を捉えて、将来的に先ほど何年後にどうなるんだということなんか言えないよっとは言ったものの、そうは言っても最終的な未来の像はこうですよということぐらいは、ある程度教育委員会の方でも出していただいて、それに向かってみんなで頑張るかとかかっていうそういう話じゃないと、なんか地区で勝手にやってくださいよってそういう話ですから、ちょっとそれだとちょっと悲しいかなっていうような気がします。はっきり言って。すいません。

後藤会長 ありがとうございます。

大場委員 最初もう今回だけじゃなくて2年前にもこういう話（をした）。最初の話が要するに子供の少子化について学校をどうするかっていう話だったんだよね。ほんで、自分もそのときからいるんだけど、とりあえずその困るとどこ本当に困るとどこを先行するような形で考えていただく中で全体的を考えていくっていうようなだったんだけど、これ別に9つの学園がどうのこうのじゃないんだけど、実際問題いま小澤さんが言ったようにでかいとこっていうと、それこそ一緒っていうか小中一緒で同じ場所に学校が絶対できっこないと思うんですよ、正直言って。中学が800人とかおって小学校が700人もおると同じ施設は絶対できないから、当然要するに分離型の一貫教育みたいな形になると思うんだよね。少ないところはできればそこか近いところで一緒っていうような考え方になってくれると、割合ありがたいのかなと。学校も結局老朽化したところもそんなに直さなくても済むし、とりあえず中学校の教室が空いているようなところがあればそこに入るクラスは知れたもんだもんで、そこへ入ってもらうとか。何かあんまりでかく話になりすぎるとなかなか難しくなってくると思うんですよね。鼎だとか旭ヶ丘だとか緑ヶ丘だっていうと、小中一貫で云々と言ってもピンと来ないんじゃないかと思うんですよね、正直言って。中学に小学校がいくつもあったりすると。少ないところ、山崎さんが言った遠山とか千代の小澤さんが言ったように少ないところをある程度先行で行くような形で。学園構想は学園構想として置く中で、その本当に困っているその学園を優先して、ある程度先行するっていう方法もあるんじゃないかと思うんですがいかがでしょうか？

後藤会長 ありがとうございます。最初の議論で話題になりましたところのスケジュールの関係に関わるような話になりましたけれど、はいどうぞ、山浦委員さん。

山浦委員 資料の14ページに、飯田の『学園構想』という資料がありますが、今各委員の皆さんのお話を聞きながら、そのページの左上にある連携一貫教育の成果と課題の上に立って、今日の現状を取り巻く環境にさまざまな課題があるので、そのことも考えながら、より確かで実効性の高い「一貫教育」をすすめていきますと示されています。

ここに書かれている『新たな課題』も捉えながらという、その『新たな課題』の中に先ほどから何人かの委員の皆さんがおっしゃっている、それぞれの地区の事情や現状、実情などに含まれる具体的な課題があるかと思います。そう考えると『新たな課題』は何か、そこをみんなで共有しておいた方がいいと感じています。

後藤会長 ありがとうございます。具体的に今何人かの委員さんから出た発言の内容にも関わる課題の問題、このことを今ご指摘いただけたんだらうと思います。ありがとうございます。別の視点でございますか。予定した時間がきてはおるんですけど、よろしいですか。ありがとうございました。

## (2) その他

後藤会長 それじゃ質問や意見交換ということはここで閉じさせていただこうと思います。ちょうど次第のところ「その他」っていうのがございますけれども、私もただ今話を聞きながら、第6回の審議会に向けてちょっと提案という形になるんですけども、審議会としての答申の形

を作っていかなきゃ、一時的な1回目の答申ということになるんですけども、作っていかなきゃいけないと思っております、何名かの委員さんによって3月までの間なんですけれども、小委員会のようなものを設けて、原案作りを進めていってはどうかというふうに思っているんですがいかがでしょうか？賛同いただけますか？

ありがとうございます。それじゃ同意をいただいたということで、私、それから副会長が入るとして、それぞれまちづくりの関係、あるいは校長先生の関係、公民館の関係、それからPTAの関係っていうようなところからお1人ずつ出ただけだったらいいなと思うんですが、よっしゃと手を挙げる方がいるといいんですがどうですか。よろしいですか。

それでは会長の指名でいいですか。それでは名簿を見ますかね。私達2人の他にまちづくりの方から玉置さん、いいですか。玉置委員さん、まちづくりの方から出ただけ。お一人ずつということで提案をさせていただきます。それから、校長先生は湯本委員さんをお願いできたらと思いますがいかがでしょうか。それから公民館山浦委員さん、いいですよ。それから、PTA保護者の皆さんのところでは、そうですね、遠山はおいでになるから、河合さんお願いできたらと思いますがいかがですか。6名ですかね。賛同いただけますかしら。はい、ありがとうございます。それじゃそういうことで小委員会という形で、今度の6回目の3月18日に向けて、そういうことで進めさせていただこうと思います。ありがとうございました。

私結びに入ってしまったて申し訳ありませんが、坂野委員さん、井出委員さんの方で今日の話聞いていただいて、アドバイスいただけるといいと思うんですがいかがでしょうか。井出委員さんの方からお願いできますかしら。

井出委員 大変踏み込んだ話ができて、よかったなと思って聞いておりました。整理をした方がいいと思ったところを二つお話しします。

一つは、目的のところ。確かな学力を育む、生きる力の基礎を育む、地域の担い手・支え手を育むという目的を設定しているけれども、それをどう評価するのかというご指摘がありました。これは重要な指摘ですが、簡単に評価できないんですね。なぜかという、生きる力っていうのは一番根幹にあるもので、生きる力を構成する一部に学力があるわけですね。体力もそうです。心の問題もあります。目的が構造化されていけませんので、評価をどうするのかって言われても、多分困るだろうと思います。具体的に数値等で評価できるのは認知能力と言われているもので、教科等の学習についての評価は可能ですけれども、測ることができる知識や技能の他にも教科を学ぶことによって形成されていく様々な能力があるわけで、それを非認知能力って言うわけですね。つまり、教科に細分化して、できたかできないかっていうところで点数がつく能力ではなくて、人と関わる力とか、困ったときにどうやってそれを克服していったらいいか考える力とか、あるいは物事を深く捉えて追求していく力とかっていうのを評価することは簡単なことではありません。だからといって、それでほっといていいかっていうものではない。例えば一番最後に、地域の担い手・支え手を育むとありますが、これは言うは簡単なんですけども、人間は社会的な存在ですから、自分が住まうところで役立つ有用な存在でありたいって思うのが普通であって、無益な存在でもいいなどと仮に口では言うことはあっても、存在としてはそういうことはあり得ません。学んだ成果が生き方にどう表れてくるかといったことを評価することは結構難

しいんですね。この目的を評価可能な目的に置き換えるためにはかなり難しい議論をしなくちゃなりません。ですから、点数や指標等で評価できる部分とそうじゃない部分っていうところを分けておいた方がいいと思います。これはもうかなり研究・実践が進んでいて、たくさん資料ありますから、ぜひ事務局の方でわかりやすく整理をしておかれるといいと思います。

二つ目はですね、先ほど新たな課題って何だっというご指摘ありました。それから、当面のことなのか、長期的なことなのか、この辺を少しはっきりさせた方がいいだろうというご指摘がありました。これは全く重要な視点です。事務局の方で新たな課題っていうのを整理する必要があるかと思います。今日議論された、当面の間に合わせて各地域に任せてやるのか、それとももうちょっと長いスパンで、飯田市全体の統合再配置まで含めた範囲で考えなきゃならないところまで来てるのか、この辺が新たな課題として出てきているわけで、避けて通れません。だけど、今すぐ、全市的な統合再配置をするっていうのはかなり無理があります。一方で、千代小千栄小が、保育園では一緒にいながら小学校に行くときに分かれていくのかという、誠にシビアな指摘がありました。これは保育園を統合することによって生じた新たな課題の一つでもあるわけですね。就学前教育と一緒にしておきながら、小学校に入ったら別れていくことになる。先ほど転校しちゃえばいいって言われたんですが、いや、いい知恵だとと思いますが、実際にみんなで千代小に行こうってことになったら、行政としてどう対応していったらいいのかっていうことも出てきます。仕組みとしてでき上がってきているものを、途中でまた変えなきゃならないような、ねじれた関係になっていかないようにするにはどうしたらいいかという新しい課題です。ぜひ知恵を集めて考えなきゃいけないと思いました。それからもう一つ、小さいところは切迫した問題だけれども、子供がたくさんいる大きなところはどうするんだという指摘がありました。あっちだけやって、こっちはやらないのかっていうことではなくて、全体的な構想で考える必要があるんじゃないかっていうご指摘。これは構想の中に踏まえておいた方がいいのではないかなと思って伺っておりました。以上です。

後藤会長 ありがとうございます。坂野委員さんお願いします。

坂野委員 はい、どうもお疲れ様です。いやあ、井出先生にだいぶ言われちゃったな。私の方からは右上のところ、教育の目的の先ほどの生きる力といわゆる資質能力っていうところについて少しお話をさせていただきたいなと思います。

今日の資料の2のところの14ページのところとかで、小中一貫校としての目的のところは3つあって、これおそらく飯田市の教育振興基本計画があるのでそこから持ってきてらっしゃるんだと思うんですけど、国レベルでいうと実は今、極力、学力という言い方は避けているんですね。資質・能力の三つの柱という言い方で整理をしています。なので行政文書としてこの確かな学力ってのはこれまで文部科学省も使ってきたものですし、飯田市も使ってきてらっしゃるんですけども、先ほどの井出先生のお話にもあったように、それだけでは実は足りないものもあるよねっていうことを少し自覚しておく必要がある。もし他に適切な言葉があるんだしたら、あえて置き換えていくというようなことも検討する必要があるかもしれません。それが一点目です。

二つ目。先ほどこの委員の方々すごいなと思ったのは、もうそろそろ整理をしなきゃいけないっていうことをおっしゃっておられたと思うんですけども、そのときにいくつか多分整理を

するために、とりわけ行政サイドの方から案を作って出すというようなことをするとき、いくつかのやっぱり考えるときの物差し、いわゆるクライテリア (criteria) ですね、規準というのが多分必要になると思います。それを今日の議論を聞きながら整理していくと、私の中で今4つぐらいかなと思っています。

一つ目のところが、今お話をしていた教育の目的と成果の評価。これをどういうふうにする。簡単に言うとゴールを何に設定しましょうかということについて、しっかりとある程度見える化するということが必要になってくるのではないかというのが一点です。

2つ目でこの会議のそもそものところであった学校規模ですね。どれぐらいが適正なのかということがまずある程度なければいけない。第2回の資料を少し今振り返らせていただいていたんですが、その際にいわゆる小学校中学校の学級数の資料をいただいていたんですが、令和5年度と、あと予定での令和11年度分の学級数があって、標準規模であるとか単級とか複式という形で出しています。このいわゆる規模の問題をどう考えますかっていうことが多分、この後の議論を少し煮詰めていくときの一つの物差しになるかと思っています。

3つ目が今日は直接議論では出ませんでした。施設の耐久年数です。統廃合するあるいは施設を建て替えるなければいけないといったようなことは非常にお金のかかることですから、そのことも含めてどういう順番で考えていったらいいだろうねということを入念に入れる必要があるかなというふうに思います。

4つ目が地域の事情です。これは先ほどの学級規模の問題とセットになるんですけども、遠山地区のような形のところで、他のところと統廃合というようなことをもし考えたとしても、そこまで通う児童生徒の通学時間等々でかなり無理が出る可能性が高い。ということになってくると、実は通学距離、これもご承知だと思いますけれども、義務教育小学校の施設費の国庫負担等に関する法律施行令っていうのがあって、国レベルだと通学距離は小学校で概ね4 km以内、中学校で概ね6 km以内っていう基準があります。一応の目安が多分これになると思うんですけども。ただし、人口が非常に少ないところだと、この通りにやっていると、かなり小さな規模の学校も残しておかなければいけないということが起こる。ということは、まさにこの地域の事情として実際には規模は小さいけれど、どれぐらいだったら残しておくべきなのかっていうことについての基準がやっぱり必要になると。

こうしたもののパズルを、皆さんで議論していただいて、具体的にどういう基準で考えたらここどこはどうですねっていうようなことであるとか、将来的にここは複式になってしまうからそれだったらどうするかといったようなことを、少し詰めて議論していただくと、感情的なものというよりも合理的なものか、ある意味冷たい言い方になりますけれども、客観的な人口変動に対してこういう形で考えていった方が良いのではないかと。量的なものだけで見るとすごく冷たくなりますので、先ほどもちょっとありましたけれども、小学校と中学校が一緒になることのメリットをどうやって出すかっていうことについてはもう少し検討する必要があるかなというふうに思います。

国レベルで言いますと今、小学校高学年の教科担任制について加配定数をつけています。もう少し平たくいいますと、5年生6年生のところまで教科に人をつけて授業の質を上げようっていうことを今やり始めていますよね。令和4年度5年度が全国で950人だったんですが、令和6年度の政府案を見ると1900人で、1年間前倒しで人数を増やしています。そうしたことも含め

て、小学校の高学年と中学校の教育をある意味で言うと接続するような仕掛けみたいなことを考える。そのときに施設一体型なり施設隣接型がいいのか、いやいや分離型でもちゃんとできるよ、ってというようなことを少し議論していただくというようなことも必要になってくるのではないかなと思います。私の方から以上です。ありがとうございます。

後藤会長 どうもありがとうございました。井出委員さん、また坂野委員さん大変失礼いたしました。申し訳ありません。ありがとうございました。それでは先ほどお願いをしました小委員の皆様方には、よろしくお願ひしたいと思ひます。お世話になります。よろしくお願ひをいたします。

それでは、その他のところに進みたいと思ひます。次回第6回審議会の内容について事務局からお願ひをいたします。

## 6 その他

事務局・倉田係長 それでは第6回審議会の内容についてですが、先ほど後藤会長の方からお諮りいただいた通り、第6回審議会までの間に小委員会を設けまして、その中で答申案をまとめていただくといい形になってまいりますので、第6回審議会の中ではその答申案を皆様に見ていただきながら、さらにそれについてご意見いただくというそんな会になろうかと考えております。よろしくお願ひいたします。

後藤会長 ありがとうございます。予定した時間を少しオーバーしてしまいましたが、ありがとうございます。それでは事務局の方へお返しをいたします。

## 7 連絡事項

進行 後藤会長さん、進行いただきまして誠にありがとうございました。また井出委員さん、坂野委員さん、大変ご助言をいただきましてありがとうございました。それぞれの委員の皆様方からも実のあるご意見をいただき誠にありがとうございました。

それでは連絡事項になりますが、第6回の審議会の開催予定につきまして事務局からお願ひをします。

事務局・倉田係長 それでは次第に記載のございます通り、第6回審議会の開催予定ですが、令和6年3月18日の月曜日19時から20時30分ということでお願ひをいたします。

進行 ただいま次回の開催につきまして、ご案内をさせていただきました。年度末の大変お忙しい時期になるかと思ひますが、申し訳ございません、それぞれご予定をよろしくお願ひいたします。その他、全体を通しまして何かご質問等がございましたらお出しただければと思ひますが。

小澤委員 すいません。いつも終わりにいろいろ言っていかなですけど。これからの会議の進め方っていうものの中で、たまたま私、千代のまちづくり委員長ってことで選ばれたのかということもあるんですが、具体的に、例えば子供さんたちの合併の、学校の合併とかそういうことについての話になってくると、ちょっと自分はもう子供がみんないなくて、全くわからないんですが、

学校のことについて知ってるようで知らないんです。それで、できればですね、遠山中学校のPTA会長さんが来ておりますから、学校のことについては非常にわかると思うんです。先生たちもわかると思うんです。何となく自分はもう子供はもう孫も全部学校出ちゃっていないから、何となくわかるぐらいで状況があんまりはっきり言ってわからないところもあるんですが、それで責任のないような発言をしてるわけじゃないんですが、これからの具体的なようなことになった場合については、できればそういうPTAの代表の人たちとかそういう人たち、特に該当するようなどこですね、そういう衆を入れて会議を開くとか。できればそういう人たちの意見もぜひ聞いていただきたいなって思うんです。以上です。あくまでも希望ということでお願いします。

進行 はい、ありがとうございました。この審議会自体はですね、15名という限られたことが定められておりますが、それ以外の部分でもですね、こちらとしては積極的にそれぞれ意見をいただける場があればと考えておりますので、そちらに関して今小澤委員さんからご意見いただきましたので、そういった場作り、またこの審議会にですね、お伝えをしながら進めていければと考えております。よろしく願いいたします。その他よろしいでしょうか？

それでは閉会としたいと思います、閉会のご挨拶を田添副会長さんをお願いいたします。

## 8 閉会あいさつ 田添副会長

本当に長時間にわたってご審議ありがとうございました。もう既に時間を超えておりますけれども、簡単にお話させていただきたいと思います。

教育委員会の方から提案ありました小中一貫校としての学園構想ですけれども、これに関してはいろんな課題はあるんだけど、現状ではやはりこういう方向で今進めていいんじゃないかなと。ただそれぞれの各学園の事情がありますので、そこら辺どう考慮するのかなってあたりもまた検討しながら、そこら辺をまた盛り込んだ形で、今度小委員会開かれますので、そこで答申していく案を作っていくようになるのかなと思います。それから、井出先生と坂野先生には、今出た課題について、本当に私達にわかりやすく教えていただきましてありがとうございました。また今後ともよろしくご指導をお願いしたいと思います。

個人的な考えとしては、まだ学園構想っていうのはまだあんまりイメージが浮かんでこないっていうような状況なんです。それで私もいくつかの学園を視察等させていただきました。一つの学園ですけれども、これは地域学校園というそういう名称で学園をつくる、地域が作る学園ですよっていう、そういうスタンスなんです。従ってコミュニティスクールよりもさらに踏み込んで、地域の人たちがその学園のある副園長になるかどうかわかりませんが、そういったところまで参画してくるっていう、そこがさらにコミュニティスクールが踏み込んだ形になってやっているとあります。そういう方向的なところの方が大事なのかな、要するにその市の学園名は全部地区名が学園名になっているんです。緑ヶ丘学園とかそれから旭ヶ丘、高陵、たぶん学校名を募集して作った校名じゃないかと思うんですけれども、私が行ったところは全て一つの行政区になっていて、それで一つの学園構想なんです。ですから、要するに、その中で小学校が2つ、中学校は1つですけれども、その中でまとまるっていうことは、やはり一つの地域の一つの学園ということで、やはり子供たちも一つの目標に向かって同じ地区の子供たちが一緒に同じ方向に向かって学習していける、活動していけるのかなと、そんなことを感じました。従ってですね。

やはり同じ地域に住む子供同士が、子供の頃から交流していくということが将来的には非常にいい方向につながっていくんじゃないかなという事で視察させていただきました。

それからもう一点、小中一貫にも関わるわけですが、今ちょっと一番大事なと思うことは、学習指導面でやはり系統的・連続的な指導を、9年間のそれをどうしていくのかなってあたりがやはり大きな課題じゃないかなと。子供たちの交流、先生方の交流もできたんだけど、ただ指導の9年間の、要するに学習内容の一貫性ですね、それをどう担保していくのかなってあたりで、実は井出先生のところの杉並区ですか、杉並9年カリキュラムですか、そういうカリキュラムが全教科にわたってできているんです。実は井出先生がこの前お話されたので杉並区のホームページを見ましたけれども、全教科にわたって9年間の一貫カリキュラムが出ているんです。カリキュラムを作るときの視点は、系統性と一貫性。その単元やそのうちの一つの学習についても、このやっている学習がどう中学校につながっていくのかとか、どう今までやってきたことと連続しているのかとか、そういったところまで全部ほとんどの1年生から中学校3年生までの一貫したそういったカリキュラムができていました。やはりこういうカリキュラムがあると、先生方が授業をするときにも、常に一貫性と連続性を考えて授業を作っていくという、そういったことで子供たちも先生方が一貫していれば、やはり授業についても前の先生からつながっているんで、そういった面でこういったカリキュラムを作っておくことが非常に重要じゃないかなということで、杉並区のカリキュラムがちょうどホームページに出ていましたので、例えば英語学習の冊子を見ましたが約200ページぐらいのっついてすごい冊子です。1教科について200ページの系統的、連続的な指導方法が全部出ているんです。そこら辺がやはり一番子供たちの人間関係とか先生とのふれあいを通しながらの関係性も大事なんだけれども、教科指導というあたりが、やはり小中一貫の一番の柱になってくるべきじゃないかなっていう、そんなことを感じました。

すみません、長々と申し訳ありませんでした。以上で第5回目の審議会を終了させていただきたいと思います。ご苦労さまでした。